

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
こころ医療福祉専門学校	平成17年2月23日	藤原善行	〒850-0048 長崎県長崎市長銭座町11番8号 (電話) 095-846-5561																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人岩永学園	平成17年2月23日	岩永城児	〒850-0048 長崎県長崎市長銭座町11番8号 (電話) 095-846-5561																				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
医療	医療専門課程	理学療法科		平成29年度文部科学大臣認定	—																		
学科の目的	本校は、医療・福祉・健康・スポーツ・文化教養・商業実務の分野において、日本国内及びアジア諸国を中心とした諸外国で活躍する、豊かな心を持つ人材を育成することを目的とする。																						
認定年月日	平成27年2月17日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業 時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
	3年 昼間							103単位 3120時間	1260時間	510時間	855時間	0時間	360 単位時間										
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
120		81	0	7	21	28																	
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～翌年3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ・成績評価は、学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。 ・成績評価は100点満点とし、60点以上を及第とする。成績評価はA,B,C,Dの4段階に分けて通知する。																		
長期休み	■学年始め: 4月1日 ■夏季: 8月31日～9月12日 ■冬季: 12月28日～1月3日 ■学年末: 3月31日			卒業・進級条件	・校納金を期限までに完納していること。 ・当該学年において履修すべき全授業科目に合格すること。 ・各科目において欠席が授業時数の3分の1(実技・実習においては5分の1)を超えていないこと。																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ・本人、保護者との電話連絡および面談 ・スクールカウンセリングの紹介			課外活動	■課外活動の種類 学生団体活動、ボランティア活動  ■サークル活動: 無																		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和6年度卒業生) 病院、介護施設等  ■就職指導内容 自らが希望する施設に就職ができるように、学生に適切な求人情報を提供すること。エントリーシートの記入や面接手法などの指導を行い就職支援を実施している。 ■卒業生数: 23 人 ■就職希望者数: 19 人 ■就職者数: 19 人 ■就職率: 100 % ■卒業生に占める就職者の割合: 82.6 %  ■その他 自らが希望する施設に就職ができるように、学生に適切な求人情報を提供する。エントリーシートの記入や面接手法などの指導を行い、就職支援を実施している。  (令和6年度卒業生に関する 令和3年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和6年度卒業生に関する令和6年4月1日時点の情報)  <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法士</td> <td>2</td> <td>23</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の1～3のいずれかに該当するか記載する。 1国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの 2国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの 3その他(民間検定等)			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	理学療法士	2	23	19								
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
理学療法士	2	23	19																				
中途退学の現状	■中途退学者 令和3年3月31日時点において●●名 ■中途退学の主な理由 学業不振、学校生活不適合、就職  ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談、三者面談、進路相談、保護者への状況報告、補講、スクールカウンセラーによる相談室の設置			5名	■中退率	6.1%																	
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・高等教育の修学支援新制度(高等教育無償化) 対象校 ・指定校推薦学校推薦減免 ・部活動評価制度 ・社会人早期出願制度 ・有資格リカレント支援制度 ・特別就学サポート制度 ・一人暮らし支援制度 ・ダブルスクール割引 2学科を併修した場合、従たる学科の入学金免除、授業料を減免する。  ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.kokoro.ac.jp/rigaku.html">https://www.kokoro.ac.jp/rigaku.html</a>																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- 兼任教員として地域の各専門職員を採用している。
- 専任教員を地域の拠点施設に定期派遣など実施しているので、必要に応じて関連施設の専門職と話し合う場を設定し、カリキュラム編成及び授業内容・方法の改善を図っている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本校の各学科の教育カリキュラムの内容について、「より社会のニーズに合ったもの」、「専門力を含めた人間としての総合力」を育む教育推進を目的として、関係業界の委員の御意見をいただく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年3月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
大木田 治夫	長崎県リハビリテーション支援センター 事務局長	令和6年6月1日～令和8年3月31日	①
志岐 浩二	三原台病院リハビリテーション科 主任	令和6年6月1日～令和8年3月31日	③
藤原 善行	こころ医療福祉専門学校 校長		
高田 一樹	こころ医療福祉専門学校 学生部学務課長		
大石 勝規	こころ医療福祉専門学校 理学療法科 学科長		
谷口 幸太郎	こころ医療福祉専門学校 教育部 課長		
永田 俊晴	こころ医療福祉専門学校 柔道整復科 学科長		
高橋 美如	こころ医療福祉専門学校 鍼灸科 学科長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

毎年6月と12月の2回開催

(開催日時)

令和5年度第1回 令和5年6月25日 10:00～12:30

令和5年度第2回 令和5年12月3日 14:00～15:30

令和6年度第1回 令和6年6月30日 10:00～12:00

令和6年度第2回 令和6年12月1日 10:00～11:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

臨床現場の状況の提供をいただき、学校教育、カリキュラムに反映させるようにしている。

国家試験対策、現場で活躍できる人材を育成できるように検討する。

現場の声として、経営的観念、人材管理ができるような人材を育てて欲しいと意見をいただき、現在、検討している。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

1年次に実施する臨床実習Ⅰ(1週間):基本的な理学療法の見学をする実習

2年次に実施する臨床実習Ⅱ(4週間):理学療法評価を体験する実習

3年次に実施する臨床実習Ⅲ・Ⅳ(8週間×2):総合的な実習

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

学内で学習した内容について、臨床実習地で経験をさせていただく。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ(1週)	検査・測定の中で、すでに授業で学習している情報収集,vital sign,ROM-T,MMTIに関して実施する力をつけることと臨床見学による理学療法士像を持つことを目的とする。	長崎北病院, 西諫早病院, 女の都病院, 長崎北徳洲会病院, にしきの里など
臨床実習Ⅱ(4週)	理学療法評価学全般(問診, 関節可動域検査, 徒手筋力検査, 血圧測定, 形態測定, 疼痛検査, 疾患特有の評価)の, 思考過程を学ぶことを目的とする。	長崎北病院, 西諫早病院, 女の都病院, 長崎北徳洲会病院, にしきの里など
臨床実習Ⅲ(8週)	理学療法の実施など理学療法士として仕事をしていく上で必要なスキルを総合的に実施する力をつけることを目的とする。ただし,評価に軸をおいた実習とする。	長崎北病院, 西諫早病院, 女の都病院, 長崎北徳洲会病院, にしきの里など
臨床実習Ⅳ(8週)	理学療法の実施など理学療法士として仕事をしていく上で必要なスキルを総合的に実施する力をつけることを目的とする。ただし,評価から治療に軸をおいた実習とする。	長崎北病院, 西諫早病院, 女の都病院, 長崎北徳洲会病院, にしきの里など

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

関連団体開催の学術大会や研修会等への参加により資質の向上をはかる。  
学園において毎定期的に開催する教職員研修会を受講することにより指導力の向上をはかる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

長崎県理学療法士協会臨床実習指導者講習会(令和6年7月6～7日)  
全国リハビリテーション教育協会分科会研修会(令和6年7月12日)  
日本パラスポーツ協会認定指導員養成校担当者研修会(令和6年9月6日)  
長崎県理学療法士連盟主催研修会(令和6年9月25日)

②指導力の修得・向上のための研修等

教職員研修会(令和6年8月19日)  
九州ブロックパラスポーツ指導者協議会主催研修会(令和7年2月8～9日)  
長崎県専修学校各種学校連合会教職員研修会(令和7年2月21日)

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

令和6年度開催予定の学術大会・技術研修への参加  
令和6年度全国リハビリテーション学校協会主催会議・研修会への参加

②指導力の修得・向上のための研修等

年3回の教職員研修会の実施(8月, 1月, 3月の予定)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自ら評価し、その結果を踏まえて、その改善に努力する。あわせて評価結果を公表することによって、学校としての説明責任を果たし、学校教育の向上を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	学校の理念・目的・育人人材像, 職業教育の特色, 学校の将来構想等
(2)学校運営	運営方針, 事業計画, 教職員組織, コンプライアンス, 業務の効率化等
(3)教育活動	業界のニーズを踏まえた教育課程の編成, 実践的な教育, 授業評価の反映等
(4)学修成果	就職率・資格取得率の向上, 退学率の低下, 学生の社会的な活躍の把握等
(5)学生支援	進路・就職支援の整備, 学生相談体制の整備, 経済的な支援体制の整備等
(6)教育環境	教育施設・教育設備の整備, 実習等の教育体制, 防災対策等
(7)学生の受入れ募集	適切な学生募集, 教育効果の公表, 校納金の妥当性
(8)財務	財務基盤, 予算・収支計画, 会計監査, 情報公開体制
(9)法令等の遵守	設置基準等の遵守および適正な運営, 個人情報保護, 情報公開等
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献, ボランティア活動・支援, 公開講座・教育訓練の実施
(11)国際交流	留学生受入れ, 留学生への適切な指導等

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

委員の意見を参考に「各学科の専門力を含めた人間としての総合力」の育成、「社会のニーズ」を感じ取って、「こころ」を込めて社会に貢献できる人材の育成に繋げている。また、第三者評価に係るセミナー等に参加している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
大木田 治夫	長崎県リハビリテーション支援センター 事務局長	令和6年6月1日～令和8年3月31日	業界等委員
志岐 浩二	三原台病院リハビリテーション科 主任	令和6年6月1日～令和8年3月31日	企業等委員
有村 俊男	長崎県介護福祉士会 会長	令和6年6月1日～令和8年3月31日	業界等委員
高比良 宏輔	社会福祉法人みのり会 救護施設あいこう園	令和6年6月1日～令和8年3月31日	企業等委員
松永 正司	長崎県柔道整復師会 副会長	令和6年6月1日～令和8年3月31日	業界等委員
瀬戸口 勇二	藤本整骨院矢上町本院 院長	令和6年6月1日～令和8年3月31日	企業等委員
森崎 太一	長崎鍼灸師会 会長	令和6年6月1日～令和8年3月31日	業界等委員
川崎 和幸	なかぞの整骨・鍼・灸マッサージ院 代表	令和6年6月1日～令和8年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員, PTA, 卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
(ホームページ)

URL: <https://www.kokoro.ac.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

臨床実習指導者会議(年1回), 非常勤講師会議(年1回), 臨床実習巡回時に理学療法士養成校としての基本方針を積極的に説明し意見を求め, 協力を得る

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要, 目標及び計画	学校法人の沿革, 教育理念, 学則, ビジョン, 学園ポリシー, 学科ポリシー等
(2)各学科等の教育	学科の教育方針, 目標資格, カリキュラム, 時間割例, 学科の教育特徴等
(3)教職員	教職員数(本務者・兼務者), 組織図, 業務分掌
(4)キャリア教育・実践的職業教育	教育課程編成委員会, 各学科の取組み, 就職状況
(5)様々な教育活動・教育環境	学園祭, ボランティア活動, 学生団体活動
(6)学生の生活支援	スクールバス運行, スクールカウンセラーによる学生相談, アルバイト先の紹介等
(7)学生納付金・修学支援	校納金一覧, 入学金・授業料減免制度, 延納・分納制度, 奨学金等
(8)学校の財務	貸借対照表, 事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校関係者評価委員会, 学校自己評価
(10)国際連携の状況	特になし
(11)その他	特になし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページにて掲載 URL: <https://www.kokoro.ac.jp/>

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法科) 令和7年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			コンピュータ演習	ITツールを使い、情報取得方法や情報提示、プレゼンテーションが行えるようになる。	1年・前	30	2	○			○			○	○	
○			医学英語	医学英単語や簡単な会話から学習し、リハビリテーションの知識を広げます。また、大学院入学を見据えた英文抄読能力の基礎を学ぶ。	1年・後	30	1	○			○				○	○
○			統計学・研究法	統計学の基礎を学ぶ。	2年・後	30	2	○			○				○	○
○			人間発達学	人間の正常発達及び発達障害について学ぶ。	1年・前	30	2	○			○			○		
○			トレーニング論Ⅰ	健康づくりを目的とした運動プログラムを作成するための基礎知識を学習する。	2年・前	30	2			○	○			○		
○			トレーニング論Ⅱ	運動処方にも必要な知識となるレジスタンスエクササイズや水泳・陸上運動について学習する。	2年・後	30	2			○	○			○		
○			パラスポーツ概論Ⅰ	地域社会で活躍できる人材となるべくパラスポーツと社会福祉について学ぶ。	1年・前	30	1			○	○			○		
○			パラスポーツ概論Ⅱ	障害者に対する援助法や地域社会でどのようなことが求められているのかについて学ぶ。	1年・後	30	1			○	○				○	○
○			生活環境論	住環境整備として建物の構造や特徴、そして代表的な疾患に対してどのように対応して行くのかを学ぶ。	1年・前	30	1	○			○			○		
○			解剖・生理Ⅰ(骨・筋)	骨、筋分野の解剖・生理学を、連動して学ぶ。	1年・前	60	2	○			○				○	○
○			解剖・生理Ⅰ演習(骨・筋)	解剖・生理Ⅰで学習した内容の定着を図る。	1年・前	60	1			○	○			○		
○			解剖・生理Ⅱ(神経・感覚器)	神経・感覚器の解剖・生理学を、連動して学ぶ。	1年・前	60	2	○			○				○	○

○		解剖・生理Ⅱ 演習（神経・ 感覚器）	解剖・生理Ⅱで学習した内容の定着を図る。	1年・前	60	1		○		○		○					
○		解剖・生理Ⅲ （内臓諸器 官）	内臓諸器官の解剖・生理学を、運動して学ぶ。	1年・後	60	2	○			○				○	○		
○		解剖・生理Ⅲ 演習（内臓諸 器官）	解剖・生理Ⅲで学習した内容の定着を図る。	1年・後	60	1		○		○		○					
○		運動学Ⅰ	運動学の基礎事項、生体力学を基礎として運動器（骨、筋、靭帯、関節）の構造と機能を理解する。	1年・後	30	1	○			○		○					
○		運動学Ⅱ	運動学の基礎事項、生体力学を基礎として運動器（骨、筋、靭帯、関節）の構造と機能を理解する。	1年・前	30	2	○			○		○					
○		生化学と栄養	疾患との栄養の関係や加齢に伴う栄養の重要性、薬物の作用、副作用について学ぶ。	1年・後	30	1	○			○				○	○		
○		臨床心理学	心理学の基礎知識から臨床における心理学分野までを学ぶ。	3年・後	30	1	○			○		○					
○		精神医学	精神科領域における主な疾患について学ぶ。	3年・後	30	1	○			○				○	○		
○		整形外科学	整形外科学の各疾患について解剖学、運動学、生理学に基づいた病態や治療法の基本的・応用的な知識を学ぶ。	2年・前	30	2	○			○		○					
○		神経内科学	各種神経疾患の成因、症候、治療方針を学ぶ。	2年・後	30	2	○			○		○					
○		治療技術（実 技）	症状に対する解釈の糸口を見つけながら理学療法を展開して行くクリニカルリーズニングを学ぶ。	2年・後	60	2			○	○		○					
○		頸損・脊損	病態およびその評価、急性期の合併症の予防策、損傷部位別のアプローチ法、家庭復帰までの理学療法を学ぶ。	2年・前	30	1	○			○				○	○		
○		救急救命医学・画像診断学	救急救命医療を理解し、ICU・CCUなどでの理学療法士の役割を理解する。また、画像診断に基づく評価を学ぶ。	2年・後	30	1		○		○				○	○		
○		医学概論	疾病・障害の病因と病態から障害予防について、細胞の変化から学ぶ。特に、運動中止を判定すべき重要な病態を中心に、注意すべき自覚症状や他覚徴候を学ぶ。	2年・前	60	2	○			○				○	○		
○		リハビリテーション医学概論	リハビリテーションの基本理念を理解し、リハビリテーション医学の基礎を学ぶ。	1年・前	30	2	○			○		○					

○		チーム連携	多職種が同じ目標に向かって協働する中で、医療福祉職とのチーム連携のあり様を学ぶ。	2年・後	30	2	○			○				○	○
○		理学療法概論	リハビリテーションにおける理学療法の役割を学び、将来の社会人としての理学療法士への心構えを養う。	1年・前	30	2	○			○				○	
○		日常生活動作学	リハビリテーション経過の時期ごとで、日常生活活動評価の意義が異なることを理解し、基本動作を種々の動作に分類して、介助・指導法を学ぶ。	1年・後	30	2	○			○				○	○
○		病態運動学	身体の動作が病態によってどのように変化するかを分析する能力を身につけ、理学療法における病態運動学実践的応用について学ぶ。	2年・後	30	2	○			○				○	
○		理学療法管理学	各種制度、施策の変更に素早く適応する対応力や、マネジメント力学び、職業倫理や組織におけるリーダーシップやコミュニケーション能力を学ぶ。	2年・後	30	2	○			○				○	
○		検査・測定法Ⅰ（関節）	形態測定や関節可動域などの検査項目の意義を理解し、正確に検査測定ができる。	1年・後	60	1				○	○			○	
○		検査・測定法Ⅱ（筋）	徒手筋力検査法（Manual Muscle Testing:MMT）の概要と評価方法や評価の選択について学ぶ。	1年・後	60	1				○	○			○	
○		検査・測定法Ⅲ（神経）	中枢性神経疾患の病態や神経学的及び運動学的特色を踏まえ、正確な情報を収集する手技と知識を実技中心に学習する。	2年・前	60	1				○	○			○	
○		検査・測定法Ⅳ（動作分析）	基本的動作の観察方法、各疾患の病態と動作の関係性について学ぶ。	2年・前	60	1			○		○			○	
○		検査測定演習（認定実技試験）	検査測定を正しく実施できるようになる。	1年・後	30	1				○	○			○	
○		理学療法総合演習（認定実技試験）	病院・クリニック・施設において、実習教育者の教育のもと患者様・利用者様と関わり、学内で学んだ知識・技術を実践できるように演習を行う。	2年・後	30	1				○	○			○	
○		理学療法総合評価学（画像・評価学）	画像から病名・症状を理解し、一般的な理学療法を説明できるように演習を行う。	3年・後	30	1			○		○			○	
○		物理療法学	物理療法の目的・分類を理解し、生理学的作用とそれに基づく治療目的、並びに適応・禁忌を学ぶ。	2年・前	30	1	○				○			○	
○		物理療法学演習	各種物理療法の実施方法（オリエンテーション能力、コミュニケーション能力等）を習得する。	2年・前	30	1			○		○			○	
○		義肢装具学Ⅰ	義肢、装具、補助具について学び、その適応とチェックポイントを学ぶ。	2年・前	30	1	○				○			○	○

○		義肢装具学Ⅱ	実際に義肢，装具，補助具の採型や組み立てチェックポイントを学ぶ。	2年・後	30	1	○			○		○					
○		運動器理学療法学	骨・関節疾患についてそれぞれの項目に対して，疾患の概要とそれらの具体的理学療法について学ぶ。	2年・後	60	2	○			○		○					
○		運動器理学療法学演習	骨・関節疾患についてそれぞれの項目に対して，疾患の概要とそれに則した評価・治療の実際について学ぶ。	3年・後	30	1			○		○		○				
○		神経障害理学療法学	神経障害の病態・症状を再確認し，評価を通して治療プログラムについて学ぶ。	2年・後	30	1	○				○		○				
○		神経障害理学療法学演習	中枢神経障害患者の疾患や症状等がイメージでき，症状に対する予測やリスク管理等を学ぶ。	3年・後	30	1			○		○		○				
○		内部障害理学療法学	循環器疾患，呼吸器障害の身体所見・画像所見・病態・理学療法を学ぶ。	2年・後	30	1	○				○		○				
○		小児理学療法学	人間の発達過程を理解し，小児期における正常発達とその障害について学びます。	2年・前	30	1	○				○				○	○	
○		内部障害理学療法学演習	内部疾患患者に対し治療・訓練を実施する際のリスク管理、患者の変化の観察ポイントを説明でき、実際の評価、プログラムの立案について学ぶ。	3年・後	30	1			○		○				○	○	
○		総合理学療法Ⅰ	専門基礎分野・臨床医学・PT専門分野について，理学療法に役立つ知識として統合する。	3年・後	120	4	○				○				○	○	
○		総合理学療法Ⅱ	専門基礎分野 解剖学，生理学，運動学，人間発達学について理学療法に役立つ知識として統合する。	3年・後	120	4	○				○		○				
○		地域リハビリテーション	地域リハビリテーションについて理解し，地域における理学療法士の役割や意義について学ぶ。	1年・前	30	1	○				○				○	○	
○		地域包括ケア	地域包括ケアシステムに関する知識の学び，さまざまな障害予防など，地域のニーズを把握し，それに対処する方法を熟考学ぶ。	1年・後	30	1	○				○				○	○	
○		地域イノベーション論	医療機関や介護保険事業所における理学療法士の役割に加えて，それらでは網羅できない地域ニーズに対応した理学療法士の諸活動を学び理解する。	2年・前	30	1			○		○				○	○	
○		臨床実習Ⅰ（1週）	理学療法の現場を見学し，理学療法士の職業イメージの形成を図るとともに，資質の向上と学習意欲の向上をはかる。	1年・前	45	1				○		○			○	○	
○		臨床実習Ⅱ（4週）	基本的な検査・測定等を適切に実施し，得られた情報から障害像を考え，課題解決に向けた仮説を立てる過程を学ぶ。	2年・後	180	4				○		○			○	○	

○		臨床実習Ⅲ (8週)	理学療法士として仕事をしていく上で必要なスキルを総合的に学ぶ。特に、評価から治療プログラムの立案ができるようになることを目的とする。	3年・前	360	8			○		○		○	○
○		臨床実習Ⅳ (8週)	理学療法士として必要な資質・知識を高め、評価から治療プログラムの立案、実施ができるようになることを目的とする。	3年・前	360	8			○		○		○	○
合計					59科目		3135時間(103単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<b>卒業要件</b> ・校納金を期限までに完納していること。 ・履修すべき全授業科目に合格すること。 ・各科目において欠席が授業時数の3分の1（実技・実習においては5分の1）を超えていないこと。  <b>履修規程</b> ・学生は、学期の始めの所定の期間に、履修しようとする授業科目を履修届により登録しなければならない。		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	1 5 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。